

第 42 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	寺尾ゼミⅢ	チーム名	寺尾ゼミナール第 10 期生 藤井 藤子
タイトル	日本農業のゆくえ		
テーマ群	a) 理論・情報 e) 産業・企業 f) 歴史・思想		
メンバー	藤井美香・久富藤子		
研究計画内容	<p>〔研究の概要〕</p> <p>この半世紀で、日本におけるコメの消費量は、半減した。日本では、1950 年代半ばから産業構造の高度化が進み、農業人口は減少の一途を辿っている。農業人口が減少した理由の一つとして、「農業が儲からなくなったために、後継者が生まれにくい」ということがしばしば指摘される。だとすれば、日本の農業は、今後、衰退するほかに道はないのだろうか。本研究では、日本農業の現状と課題について整理・分析し、その将来の可能性を考察する。</p> <p>〔研究の目的〕</p> <p>本研究では、「生きていくうえで必要不可欠である“食”の生産を担っているが、なぜ衰退しているのか」という一見矛盾しているような農業の問題について、「農業と市場」という観点から理論的に考察する。あわせて、厳しい環境・状況にありながら実績を伸ばしている農家に共通して観察されることを整理・分析し、日本農業の将来の可能性を考えるための手がかりを得る。</p> <p>〔研究の手法〕</p> <p>分析対象としては、主として、日本におけるコメ市場を取り上げる。戦後から現在に至るまでの日本農業の歴史的変遷をみながら、コメの生産・消費に関する各種データを整理・分析する。そのうえで、「日本 - 農業 - コメ」の関係について、経済理論や統計学、経営学などの観点から多面的に検証し、日本農業が抱える課題を解決するための理論的な仮説を構築する。</p> <p>〔研究の成果〕</p> <p>本研究の期待される成果は、日本農業の特殊性が明らかにされることである。今後も、われわれが生きるうえで、“食”が必要不可欠であることには変わりはない。本研究を通じて、日本農業が抱える諸問題について、解決が求められる本質的な課題が何であるのかが明らかにされるはずである。本研究で得られる成果が、日本農業の将来を考えるうえでの一助となれば幸いである。</p>		